野地峰
白滝の尾根

野地峰は嶺北地方の土予国境。大川村と新居浜市の境。
かって栄えた白滝鉱山を山懐に抱えている。
山頂はなだらかで360°の大展望。ここから見る四国の山並は絶佳。
かって、土佐と伊予を結んだ往還が野地峰を越えている。
峠には首なし地蔵が建てられ、道中旅人の安全を見守っていたことだろう。別名「白滝越え」とも言われる。
太平洋と瀬戸内海を隔てる大分水嶺でもある。
この峠に立つと四国のまん中にいることを実感する。

地図を見てその風景の中にたたずむ
白滝の土地の記憶を想像して紡いでみる。

赤石山系 法皇山脈

赤石山脈を越えて伊予三島の瀬戸内まで30キロにおよぶ架空索道で鉱石や食料品日用品を運搬していたという。

法皇山脈の名前の由来は、後白河法皇の三十三間堂建立に使われた木材が優秀であったので、その産地に法皇の名前を付けることが許されたという。

大野三角点(二等) 1,400m

東光森山へ

大野越

東光森へ4.4km
野地峰へ2.2km

道標

切れこみ

水谷へ通じる往還があるらしい

ワイヤー残がい 足元に注意

ブナ、カンバの尾根 ススダケ拓れている

白滝のテラス

選鉱台跡(堀切)

白滝が満大展望!

見晴し岩

白滝鉱山

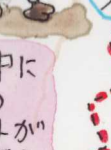
元禄12年(1699)には大北川銅山の試掘が始められ、その後、文化12年(1815)に麻谷(朝谷)銅山が開かれている。
明治26年、白滝銅山、大北川鉱区の採鉱が着手され、同37年ごろには人の背によって精銅が野地峰を越えて輸送されていたと大川村誌に記録されている。

昭和4年から日本鉱業の経営となって採掘が続けられ、最盛期には戸数417戸、人口1960人にふくれあがり、諸施設も整って白滝銀座が出現して盛況をきわめたという。

昭和43年あたりから経営が困難となり、加えて大火などもあって昭和47年3月に閉山。
白滝銅山の歴史の幕がおろされる。
(土佐の峠風土記)より

2020年4月25日
いつもとちがう春
それでも風は早緑

登山道の途中に銅山採掘の錆びたバケットがのこっていたりする。



谷

渡渉(0-2ヶ所あり)

白滝の語源
白滝権現(やすだれの滝または白滝と称せられる滝にちなんだ地名と伝えられており、野地峰越えは別名白滝越えとも訪れていた。

自然王国 白滝の里

大滝山工事

はちまん地鶏生産センター

クキンシャモと白色プリマスロックの交配

金剛沖明方面

太登岐山

野地峰 1278M

首なし地蔵様

分水嶺を意識しながら稜線を歩くのが好きだ。雨水がこの尾根のどちらに降るかで行き着く海は大きく変わる。
ぼくの毎日も、日々いろんな分水嶺をつみかさね、でこぼこ道を歩きながら今を生きている。

鹿を2頭見た。ここが鹿に食い荒されないことを願う。

大岩

天岩

山頂

野地峰 (1279.4m)

伊予への往還 精銅が人力や馬の背で伊予へ運ばれていた

山頂には首なし地蔵が祀られていて、通行人の安全と見守ってきた。
傍らに「三界萬霊」の文字

白滝鉱山の名称。1765年大北川、枝の木、大川、白滝、中藏、高知、賀和、朝谷の7鉱山の統一名称として白滝鉱山と定めた。

山村広場は鉱山の総合事務所や採掘で出た廃石の山を整地したもの。すごい規模だ。

パウンコ店や映画館もあった白滝銀座

松タケいっぱい エビフライもタケいっぱい ちょっと急

白滝神社

WC

山村広場

調印式できそう

道標

広場

登山口(堀切)

P

登山口

林道 (トロッコ道跡?)

美しい笹原の道

分水嶺

反射板

反射板
高郷ダム マイクロ回線中継局

点々と岩場

麻谷山国有林

ちょろちょろ谷(水)

人工林

野地峰は鉱山が栄えていた時代、人や物資が越えていった。大川村史によると、伊予三島からこの峠を越えて白滝の鉱山宿舎に着いた日は足が立たず一日中寝込む人もいたというほど大変な峠だったという。

若齢人工林

岐路に立った時、どちらの道を選ぶのかいつも迷っている。
ある時は、目に見えぬ働きによって方向を決めたように思うこともある。
確かなことは、多くの人々の恩恵を受けて今の自分があるということだ。

笹ヶ峰方面よく見える 遠く手箱越え方面も。

大川黒牛

吉野川岸から白滝に通ずる道は、土佐町の上津川をさかのぼり早天山の東を巻いて標高980mの村境を越え、馬で物資が運ばれていたという。

アップダウンくりかえす

大登岐山

美しいブナの森が広がっている

急傾斜

石標

八方ブナ

道標

野地峰1.4
黒岩山0.2

黒岩山 (1341.6m)

笹深

土佐町境

早天山へ

2020.6.9
NO.106

八方ブナ

参考文献
土佐の峠風土記